HABITAT まちづくり通信 イラク特集号 Vol.3

イラクとハビタット ～ その３

まちづくり･人づくりの国連機関

国連ハビタットは、都市とまちづくりの国連機関です。世界の全ての人々に適切な住まいを確保することを使命としています。国連ハビタット福岡事務所は、アジア太平洋地域事務所としてアフガニスタン、カンボジアなど域内28カ国を管轄し、コミュニティ主体のまちづくりや紛争後のまちづくりなど様々な支援活動を行っています。特にスマトラ沖地震・津波によって甚大な被害を受けたスリランカやインドネシア等においても、住宅の再建や井戸・道路・給水設備など生活インフラの復旧等数多くの復興支援活動を行っています。そして、アジア太平洋地域には含まれませんが、イラクの復興事業も、この福岡事務所の担当する大変重要な事業のひとつです。

国連ハビタットが日本政府の支援を得てイラクの教育・住宅分野における復興事業を開始してから、約1年半が経過しました。これまでに、サマーワ、バグダッド、バスラなどの都市において200校近くの幼稚園・小中学校の再建を完了し、多くの児童・学生が快適で安全な環境での学校生活を取り戻しています。また、貧困層を中心とした住宅の再建も約300戸が完了し、残り約1700戸の再建工事も急ピッチで進められています。

イラクは、長年に及ぶ独裁政権と経済制裁、そして戦争とその後の略奪行為によって国内の多くの公共施設やインフラ設備が甚大な被害を受けました。戦争は2003年5月に終結しましたが、直接の戦争被害が少なかった地域においても、施設の劣化・老朽化は激しく、授業再開の目処の立たない校舎や機能しない給水・ゴミ処理施設などが多数残っています。国連ハビタットは、これらの施設の被害状況を見極め、イラク政府や地方自治体、地元コミュニティと協議しながら優先順位の高い施設の再建を進めています。その中から、今号では技術大学や教員養成学校など、高等教育施設を再建する「教育施設再建事業」の様子をご紹介します。

戦争被害を受けたバグダッドの大学

教育を復興する

イラクは元々教育水準の高い国でした。旧政権以前には、平均識字率は男性90%、女性88%（1985時）とされていましたが、近年では男性 56%、女性にいたっては25%まで低下しています。（2003年15歳以上人口推定）この教育機会の急速な低下には、経済制裁による国内経済の低迷と貧困、教育予算の極端な削減による施設の劣化、旧政権の教育介入による教育システムのレベルの低下、教育への関心の低下や教職員の不足など様々な理由が挙げられています。イラク通信の前号にてご紹介した国連ハビタットの進める初等教育施設の再建事業は、児童、特に女子児童の就学率を向上し、長期的視野に立った教育の復興を目指しています。より多くのイラクの子どもたちに対し、安

再建された小学校の前で：サマーワの子どもたち

全で適切な教育環境を通した幅広い視野と選択肢を提供し、学校がより広い枠組みでの平和を考える場となるよう願っています。再建が完了し、すっかり美しく快適に生まれ変わった幼稚園や小学校には、子どもたちの嬉しそうな顔が大勢戻ってきました。

そして、初等教育施設が長期的視野に立った教育の復興を目指すものであるとすれば、これからご紹介する大学や専門学校の再建事業は、より短い期間に教育復興を目指す基盤となる事業といえるでしょう。この教育施設再建事業は、サマーワ、バグダッド、バスラの 3 都市における技術大学や教員養成学校、商業専門学校などを中心に 17 の校舎や施設を再建しています。技術系大学を優先的に再建することにより、イラクの復興を担う若手イラク人技術者を早期に育成すること、そして学校の校舎設備以上に重要な役割を担うイラク人教職員を早期に育成することなどが目的です。

サマーワ女子教員養成学校

前号でも触れましたが、サマーワは戦争被害こそ少なかったものの、旧政権下ではインフラの整備が遅れ、またその後の西側諸国からの経済制裁の影響を大きく受けた都市です。サマーワには教員養成学校や商業高等専門学校などの高等教育施設がありますが、その大部分の校舎が老朽化し、窓ガラスの破損、雨漏り、衛生施設の不備、電気設備の故障など、修理が施されないままの校舎や施設を使用するという状況が続いていました。なかでも劣化の激しいサマーワ女子教員養成学校は、同市における唯一の女子教員養成学校で、1975 年の設立以来、これまでに教師となった卒業生は 4522 名、その多くがサマーワ市のあるムサンナー県内やイラク南部を中心に幼稚園、小中学校の教員となっています。同学校の校長アミーラ先生は言います。「旧政権時代に劣化した教室や施設は、修理をする資金がなく、そのまま放置するほかありませんでした。食堂も使用できなくなり、大変不便でした。」同学校は校舎の外壁、内壁ともに老朽化のために剥がれ落ち、教室内では激しい雨漏りと、校舎の外では落ちたレンガが校庭に放置されまるで瓦礫の山のようになってしまいました。

そして、残念ながら設備の劣化は、学校そのものの価値を下げることにもなりました。「当時、女子に対する教育は軽視されるようになり、女子の就学率は著しく低下しました。女子を高等教育機関に通わせるだけの余裕のある経済状態ではなくなってしまったのも確かに事実ですが、学校も女子学生にとって魅力ある教育の場ではなくなってしまったのです。」

2003 年 5 月、イラク戦争が終結した後、同年 10 月

サマーワ女子教員養成学校(再建前)

サマーワ女子教員養成学校(再建後)

には世界銀行・国連によるイラク国内の被害状況を見極める共同アセスメントが行われました。その結果、国内全域において教育施設の劣化および教育レベルの低下が指摘されました。国連ハビタットは、復興を必要とする様々な分野のうち、教育・住宅・インフラ等の分野を担当し、学校の再建事業を手掛けることになりました。イラクで緊急修復を必要とする教育機関は全体の 80%とされ、その全ての学校の再建を叶えることは難しいですが、まず緊急性・優先順位の高い教育機関として、イラク政府教育省と協議の結果、サマーワではこの女子教員養成学校が選ばれました。

サマーワ女子教員養成学校の再建は、約 85 日の工事期間を経て大変立派に、また女子校らしく美しく生まれ変わりました。工事を担当した地元サマーワのアマール社は、この学校をサマーワの復興のシンボルにしたいという思いを込めて、大変立派な校門も再建しました。瓦礫が撤去され、レンガタイルが敷き詰められた校庭は女子学生の憩いの場となり、「私は、理科の先生になって、この国から字の読めない子どもをなくしたい！」「私は数学とコンピュータの先生になりたい。イラクの全ての小学校にパソコンが置かれるようにしたいのです！」と話してくれた女子学生の笑い声の耐えない明るいキャンパスからは、再建前の姿は到底想像もつきません。「学校が再建されてから入学

希望の学生が急増し、このままだと教室の数が 3 つ分足りなくなりそうです。」とアミーラ先生も嬉しそうです。現在この学校で学ぶ 530 名の女子学生らが、何年か後には若い教育者として、イラク全国の初等教育機関に赴任し、教育復興の重要な担い手となっていくことはいうまでもありません。

サマーワ女子教員養成学校の学生

イラクの若い技術者を育成する：バスラ技術大学

バスラは、イラク南部最大の都市です。人口は 130 万人を超え、国立バスラ大学や専門学校、職業訓練高等学校など数多くの高等教育機関があります。なかでも市内に 8 つの実習施設等を有するバスラ技術大学からは、1973 年の創立以来多くの技術者が輩出されてきました。しかし、イラク戦争の終結後、同大学の校舎や施設は凄まじい略奪の被害に遭い、コンピュータや技術設備のみならず、校舎そのものの電気設備や窓、扉、屋根や壁材にいたるまで、あらゆる「形のあるもの」が略奪されました。「これまで大勢の優秀な卒業生を育てた大学の校舎が、戦争被害と略奪によって残骸になってしまった姿を目にした瞬間は、本当に辛く悲しかった。大学は 6 ヶ月間閉鎖となった後、近隣の中学校の校舎を借りて何とか授業を再開し、これまで

骨組み以外全て略奪されたバスラ技術大学の実習室

バスラ技術大学(再建中)

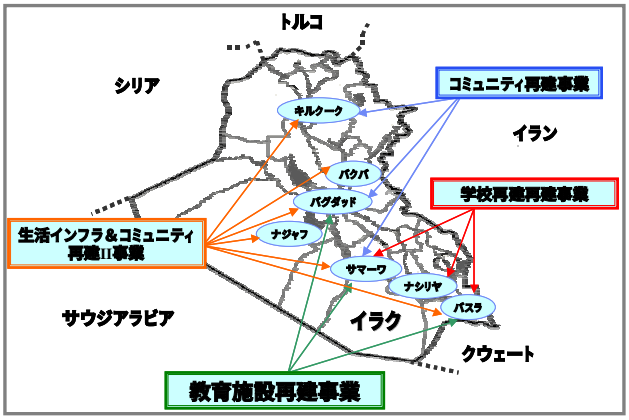
続けてきました。」学長のアリ博士は戦争終結後の様子を振り返ります。「イラク政府の高等教育省から、日本政府が国連ハビタットを通じて大学施設の再建を行うことを知らされ、とにかく私どもの大学にとって最も重要な実習施設や技術設備から優先的に再建をしていただくようお願いしました。」約 40 日の工事を経て、最初の技術校舎の再建が完了しました。イラク国内の不安定な治安状況はしばらくは続くかもしれないが、近い将来には必ず外国の大学との連携や交換プログラムなどを実現したい、そう語るアリ学長の視線はすでに 3 年、5 年先を見据えているようです。バスラにおける同大学の再建工事には、市内 10 社の建設会社や工務店が選ばれ、これまでに、のべ 10 万人以上（人日）の雇用を創出しながら順調に進行し、現在までに、大学本校舎および更に 5 つの施設の再建が完了しています。

バスラ技術大学の学生たち

編集後記

今号でご覧いただいたサマーワやバスラの学校再建の現場写真や児童・学生たちの笑顔の写真は、国連ハビタットのイラク人職員が仕事の合間に撮影したものです。イラクの治安状況は依然として予断を許さず、私どもの事業も常に職員や工事業者、そして受益者である一般市民や学生たちの安全に配慮しながら進めております。都市によってはなかなか事業計画どおりに工事が進まず、緊張と不安を繰り返しております。しかし一方で、イラク国内の世論調査によれば、市民はテロや犯罪よりもむしろ雇用問題やインフラの改善に関心が高く、新しい政府には先ず電力の回復や失業問題、衛生問題などへの取り組みに期待しているという結果が表れています。さらに、自分や家族の将来について、治安に不安を抱えながらも、不安よりもむしろ希望の方が大きいと答えた人が全体の約７割を超えています。その前向きな姿勢は、写真の中の彼らのまっすぐな視線に見てとれると思います。今回インタビューに答えてくれたサマーワ女子教員養成学校のアミーラ先生は、最後に「私は日本人が大好きです。本当です。戦争のずっと前から尊敬していました。日本人が大切にしている‘努力’と‘忍耐’は、今の私たちイラク人にとっても大切なことです。」と話してくれました。日本の復興支援は、確かにイラクの人々の心に届いているのだと改めて実感するとともに、人々の心に灯る将来への希望と平和への思いを汲みながら（そして、私たち自身も改めて背筋を正しながら）、今後ともこの復興支援事業を誠心誠意進めてまいりたいと願っております。

国連ハビタット イラク担当専門官　星野幸代



国連ハビタットによる日本政府支援イラク復興再建事業

国連ハビタットからのお知らせ

国連ハビタット福岡事務所は、今年８月１日に設立 8 周年を記念して公開フォーラム：「イラク・スリランカにおける紛争・災害後のまちづくり」を開催しました。イラク及びスリランカの事業に携わる国連ハビタット職員がビデオ出演し、再建復興事業の現場から、事業の様子や被害を受けた住民の様子をご紹介しました。

また同時開催イベントとして、活動パネル・写真展「災害を乗り越えて−イラク・スリランカの人々の明日」も開催しました。このイラク復興再建事業についての活動紹介パネルや写真（約 200 点）、活動報告ビデオなどはご要望に応じて送付、貸し出しを行っておりますので、学校や団体の行事、文化祭、ボランティア、研究会などにもぜひご活用ください！

▼日本ハビタット協会は国連ハビタットの活動を支援しています。▼
「紛争災害後のまちづくり募金」にご協力下さい

国連ハビタットは、イラク、アフガニスタン、カンボジア、スリランカ、インドネシアなど、戦争や災害で疲弊した「まち」の再建復興事業を実施しています。「人の幸せをささえる“まちづくり”」にご協力を宜しくお願い致します。

●郵便振替　00150-2-17590　日本ハビタット協会
●みずほ銀行　麹町支店　普通口座　210-8468
　特定非営利活動法人日本ハビタット協会
●あおぞら銀行　　本店　普通口座 6753952-001
　特定非営利活動法人日本ハビタット協会

立掛け・壁掛け両用タイプです！

ハビタット・カレンダー2006

世界ハビタット･デー記念絵画コンクールの優秀作品を集めたハビタット・カレンダー2006を販売いたします。収益金は国連ハビタットの「災害・紛争後のまちづくり」再建復興事業に使用させていただきます。

❑ １部　¥1000 円（送料・消費税込）

特定非営利活動法人日本ハビタット協会
（発行責任：山本博子；監修：国連ハビタット星野幸代）

[お問い合わせ先]
〒102-0083東京都千代田区麹町1-12ふくおか会館1階
TEL03-3512-0355　　E-mail: info@habitat.or.jp
〈福岡支部〉
〒810-0001福岡市中央区天神1-1-1アクロス福岡8階
TEL 092-724-7121
E-mail: habitat.fukuoka@habitat.or.jp
HP: http://www.habitat.or.jp

2005年10月1日発行

イラク特集号 VOL.4
「生活インフラを再建する」は
2006年春発行予定です。

次号では、首都バグダッド、サマーワをはじめ、イラク国内６都市にて展開を予定している「生活インフラ＆コミュニティ再建事業」をご紹介します。ゴミ・下水処理施設の再建や、孤児院・弱者施設などの再建の模様をお伝えします。